



知床科学委員会 しんぶん

知床世界自然遺産地域 科学委員会

NO.22

知床世界自然遺産地域の管理に関して、有識者に科学的な助言を求める「知床世界自然遺産地域科学委員会」が開催されました（第1回：2022年9月5日、第2回：2023年2月16日）。

TOPIC
1

第2期長期モニタリング計画

知床世界自然遺産地域では、順応的管理を行っていくために2012年から「長期モニタリング計画」を策定し、モニタリングを継続的に実施しています。本計画の策定から10年が経過した2021年度には、これまでに得られたモニタリングデータを用いた総合評価を実施し、2022年3月には「知床世界自然遺産地域・長期モニタリング計画（2012年～2021年度）総合評価書」が取りまとめられ、知床の世界自然遺産としての価値は良好に維持されているという結果が示されました。

2022年度は「第2期長期モニタリング計画」で設定するモニタリング項目について、具体的なモニタリングの対象や評価基準をどのようにするかについて、議論を行いました。

長期モニタリング計画（2012～2021年度）総合評価書の一般向けパンフレット

『**知床世界自然遺産「知床」のいま**』は知床データセンターに掲載しています。



世界自然遺産「知床」のいま
長期モニタリングからみた知床の現在

TOPIC
2

知床世界自然遺産管理計画の見直しを行います！

知床世界自然遺産管理計画は、知床の世界自然遺産としての価値をより良いかたちで後世に引き継いでいくにあたり、遺産地域の自然を将来にわたり適切に保全・管理していくことを目的として2009年に策定されました。計画策定から10年以上が経過したことから、長期モニタリングの結果や社会環境の変化等を踏まえ、今年度から管理計画の見直しを行っていくことが決まりました。

TOPIC
3

ユネスコへ保全状況報告書を提出！

2021年7月に開催された第44回世界遺産委員会で、気候変動への適応戦略やトドの保護管理など8つの項目について決議され、回答が求められました。

決議事項については、科学委員会及びワーキンググループ／アドバイザーミーティングで議論を行い、回答を保全状況報告書として取りまとめ、2022年11月にユネスコ世界遺産センターへ提出しました。保全状況報告書は、2023年9月にサウジアラビアで開催される世界遺産委員会で審査される予定です。

★決議内容と回答の詳細は裏面へ→

決議事項と回答（保全状況報告の概要）

国として気候変動への適応を重視していることを歓迎し、策定した気候変動への適応戦略を世界遺産センターに提出すること。また、顕著な普遍的価値（OUV）を継続的に保護していくための確実な支援を要請する。

＜回答内容＞

知床が気候変動によって受けとる影響について再整理を行い、適応オプションの検討を進めている。2024年末を目指して、順応的管理戦略の策定を目指す。

気候変動による影響を把握するためのモニタリングを充実させた長期モニタリング計画の改訂を評価する一方で、資産のOUVに関する構成要素を長期モニタリング計画に完全に確実に反映することを要請する。

＜回答内容＞

「知床世界自然遺産地域長期モニタリング計画（2012年策定）」で実施したモニタリングに基づき2022年に総合評価を実施した結果、知床の世界遺産としての価値が維持されていると評価された。また、2023年3月までの改定完了を目指して計画内容の見直し作業を進めている。本計画では、気候変動に起因する影響のモニタリングを充実させるほか、サケ科魚類や海棲哺乳類の生息状況を含め、引き続き生物多様性の各属性をモニタリング対象とし、OUVの状況について科学的に評価していく仕組みとしている。

トドについて、個体群データがない状態で継続されている駆除に対する懸念を再度表明し、個体数把握のための調査手法の早期開発を要求する。

トドの駆除を見直し、必要に応じて縮小または中止することを要求する。

＜回答内容＞

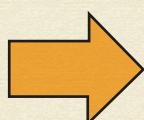
根室海峡来遊トドの個体群データ等を解析中であり、2024年度に改訂予定の管理基本方針のもと、採捕上限を設定し、個体数管理に取り組む。

トドによる漁業被害は依然として大きく、強化刺網など駆除以外の防除では効果が低いため、過去の駆除実績からトドの絶滅を招く危険性のない現行の採捕数による駆除で被害軽減を図る。

- a) 河川再生の現在の理解を強化するため、河川生態系の生物的な価値（巨大な流木の役割や産卵環境の質）を向上させるための対策を講じること。
- b) 河川再生の必要性と漁業関係者の懸念とのより良いバランスをとる方法として、巨大な流木を捕獲するための代替手法の検討を実施すべき。
- c) 河床の一部に実証している、河床路パイルットプロジェクトの影響については、引き続きモニタリングを行い、特に河川浸食、魚類の遡行、底生生物の生息状況への影響がある場合には迅速に対応を講じるべき。

＜回答内容＞

ルシャ川では2024年の完了に向けダム改良工事を進めており、モニタリングの実施により効果を評価する予定である。河川上流域からの流木については、湾曲地形の堆砂域を利用した流木捕捉効果について検討していくこととし、魚類の遡上については、引き続き各種モニタリングを実施し、必要に応じて改善措置を行う。



■制作・発行■

環境省釧路自然環境事務所

〒085-8639

北海道釧路市幸町 10-3 釧路地方合同庁舎 4 階

会議の内容をさらに詳しく知りたい方はこちら

知床データセンターのアドレスが変わりました
<http://shiretokodata-center.env.go.jp/>